

・今年度セメント輸出、850万トﾝ程度見込み

14年度の日本からのセメント輸出量は13年度並みの850万トﾝ程度と予想される。主要輸出先のアジア地域の需要は旺盛で、円安と価格アップで採算性が改善しているため輸出量を拡大したいところだが、現在は国内需要に対応すべく、国内優先で供給している状況である。ただ、将来的には国内需要は再び縮小するものと予想されるため、今年度はそれに備えて長期にわたり取引のある固定的な需要先には輸出量を確保する方針で、加えて出資先の海外の輸入業者向けにも輸出するため、前年度並みの輸出量となる見込みだ。これまで国内需要の調整弁として位置づけられてきた輸出だが、成長するアジア地域の将来性を見据えた戦略的な取り組みが必要となっている。

・13年度全国生コン工場数、39減の3417

13年度(14年3月末時点)の全国生コンクリート工場数が、前年度と比べ39工場減少し、3417工場(3114社)となった(全生連調べ)。過去5年間では、減少幅が最も小さい。ピークの92年度の5034工場(4443社)と比較すると、1617工場(1329社)減少し、7割弱の水準となる。この間の需要は、最盛期(90年度1億9799万7千㎡)から半減しており、工場数(生産能力)の減少が需要減に追いつかず、供給力と需要量がかい離した状態が続いてきた。全生連は、10年度から5年間にわたる集約化を柱とする構造改革事業を推進。今年度は最終年度となり、成果を取りまとめる総仕上げの年となる。

・パイル大手5社の13年度決算

大手パイルメーカー5社の14年3月期(トヨタアサノは14年2月期)連結決算がまとまった。パイル需要は全国的に増加基調で官需・民需とも堅調に推移し、4社が増収となった。日本コンクリート工業は大型物件の受注減などから減収。損益面では、販売費などの増加により日本ヒュームが営業減益となったものの、4社が営業増益となり大幅に収益の改善が見られた。

2014.05.19号

・セメント主要5社の2014年3月期、数量効果で増収増益

セメント主要5社の2014年3月期連結業績が13日までにまとまった。セメント国内需要の回復、関連する生コンの販売数量増加などを受け、兼業社のセメント部門を含めて増収となった。これまでの合理化で筋肉質の経営体質となっており、物流コストは増えているが、営業利益も大幅に増えている。15年3月期も堅調なセメント国内需要を受けて増収増益の見通し。ただセメント事業単独での損益改善のための売価是正は積み残しの課題となっている。好業績の中での値上げであり、各社は引き続き実情を粘り強く説明し、需要家の理解を求める考え。

・関東一区の主要生コン協組、値上げ出揃う

神奈川生コンクリート協同組合(小岩文幹理事長)は、8月1日以降の新規契約分から生コン価格を㎡あたり1500円値上げする。骨材をはじめとする原材料費高騰や輸送費上昇等に伴うコストアップ分を価格に転嫁するのが目的。関東一区では、すでに多くの協組が値上げを実施または表明しているが、神奈川が価格改定を決めたことで、1都3県すべての中心協組の値上げが出揃った。

・建築用製品3社の2014年3月期、数量効果で収益改善

大手建築用セメント製品メーカー3社の14年3月期連結決算がまとまった。震災復興関連需要や国土強靱化計画などのほか、民需では消費税増税前の駆け込み需要などにより建設需要は堅調に推移し、各社とも大幅に収益が改善または増加した。ニチハ、ノザワは大幅に増収増益。エーアンドエーマテリアル(A&AM)は減収ながら経常利益は3倍増となった。

2014.05.12号

・高炉セメント13年度販売量、4年ぶり1000万トﾝ回復

高炉セメントの販売量が4年ぶりに1000万トﾝに回復した。セメント協会が集計した2013年度品種別セメント販売によると、高炉セメントは前年度比9・3%増の1085万8千トﾝで、国内販売4695万3千トﾝの23・1%を占めた。構成比は0・4ポイントのアップ。東北は初の100万トﾝ台突破の112万2千トﾝで、従来から比率の高い近畿以西(実績のない沖縄は除く)も堅調だった。

・全生連が白舗装で共同受注ガイド

全生連(阿部典夫会長)はこのほど、コンクリート舗装の普及推進に向けた取り組みの一環として「コンクリート舗装共同受注ガイドブック」を発刊、全国の傘下協組に3部ずつ配布した。発刊に際して、長期耐久性やライフサイクルコスト等の優位性が認められ、国土交通省がコンクリート舗装の活用をうたうなど、「今後適材適所でのコンクリート舗装の採用が期待される」とした上で、「積極的に道路建設・維持に関わっていくためガイドブックを作成することとした」としている。

・パイル13年度出荷、5%増の310万トﾝ

コンクリートポール・パイル協会が集計した13年度のコンクリートパイル出荷実績は、前年度比5・0%増の310万4308トﾝとなり、3年連続のプラスで5年ぶりに300万トﾝに達した。高支持力杭は6・2%増の195万5939トﾝ。パイル全体に占める割合は63・0%で、0・7ポイント上がった。